平成２９年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第２号
（５月の発生予想）

平成２９年４月２８日

【作物名】 病害虫名	予報内容 （発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比）	予報の根拠

【水稲】

イネドロオイムシ	量：並 時期：早い	①　前年の被害は下越、新潟地域で多かったが、他は平年並であった。（＋～±）。 ②　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±）
イネミズゾウムシ	量：やや少ない 時期：早い	①　前年の被害発生量は平年比やや少なかった。（－） ②　向こう１か月の気温は高いと予想され、成虫の水田侵入時期も早いと推定される。（＋）

【なし】

黒斑病	量：やや少ない 時期：並	①　前年の発生量は平年比やや少なかった。（－） ②　なしの生育は平年並。 ③　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±）
黒星病	量：並 時期：並	①　前年の発生量は平年比やや多かった。（＋） ②　４月下旬の発生量は平年並。（±） ③　なしの生育は平年並。 ④　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（－）
	【防除上の留意事項】 ①　花そう基部の病斑は葉や果実への伝染源となるため，見つけ次第除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 ②　落花期の薬剤散布は、黒星病を防除する上で特に重要なので、確実に防除を行う。また、天気予報に留意し、降雨前散布を徹底する。 ③　耐性菌の出現を抑制するため、同一系統薬剤の連用を避け、作用機構の異なる剤を交互に使用する。	
セイヨウナシ 褐色斑点病	量：並	①　前年の発生量は平年並。（±） ②　主要産地では一次伝染源となる落葉処分等が取り組まれた。（－） ③　４月下旬の発生量は平年並。（±） ④　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±）
	【防除上の留意事項】 ①　園内をよく観察し、発病葉が認められた場合は直ちに除去し、園外に持ち出して適切に処分する。 ②　初期感染を防止するため防除間隔が空きすぎないよう注意するとともに、天気予報に留意し降雨前散布を徹底する。 ③　耐性菌の出現を抑制するため、同一系統薬剤の連用を避け、作用機構の異	

【作物名】 病害虫名	予報内容 （発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比）	予報の根拠
セイヨウナシ 褐色斑点病	なる剤を交互に使用する。	
ナシヒメシンクイ	量：並 時期：並 第１世代幼虫のふ化盛期：５月第２半旬 ～５月第３半旬	①　４月第５半旬までのフェロモントラップ誘殺数は概ね平年並。（±） ②　越冬成虫のフェロモントラップ誘殺盛期は平年並の４月第６～５月第１半旬と推察される。 ③　向こう１か月の気温は高いと予想されている。
ハマキムシ類	量：並 時期：やや早い 発蛾最盛期：５月第６半旬	①　前年の発生量は平年並。（±） ②　４月下旬の発生量は平年並。（±） ③　向こう１か月の気温は高いと予想されており、越冬世代成虫の発蛾盛期も平年比やや早いと推察される。
アブラムシ類	量：並～やや多い 時期：やや早い	①　前年秋の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～＋）
クワコナカイガラムシ	量：やや多い 時期：やや早い	①　新潟市南区で稀に卵のうの発生を認めた。（＋） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されており、越冬世代幼虫のふ化盛期は５月第２～３半旬で平年比やや早いと推察される。（±～＋）
	【防除上の留意事項】 散布適期は若齢幼虫期なので、防除が遅れないよう注意する。	

【もも】

せん孔細菌病	量：やや多い	①　前年秋季の発生量は平年比やや多く、降水量は平年並であったことから、越冬菌量はやや多いと推察される。（＋） ②　４月下旬に中越地域で春型枝病斑が認められた。（＋） ③　向こう１か月の降水量は平年並か少ないと予想されている。（±～－）
	【防除上の留意事項】 ①　一次伝染源となる春型枝病斑は、開花期に発生し落花期に目立つようになるので、その時期に園地内をよく見回り、病枝は見つけ次第せん除する。 ②　薬剤防除は多発生してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。重点防除時期は４月中旬～６月中旬である。 ③　風当たりの強い園地では、防風ネットの設置、補修を行うなど防風対策を実施する。	
モモハモグリガ	量：並 時期：並 ふ化盛期：５月第１半旬頃	①　４月第５半旬までのフェロモントラップ誘殺数は平年並～やや少なく（±～－）、誘殺盛期は４月第４半旬頃で概ね平年並である。（±） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。

【作物名】 病害虫名	予報内容 （発 生 量：平年比 発生程度： 発生時期：平年比）	予報の根拠

【冬春トマト（施設）】

灰色かび病	量：並 程度：少発生（果実発病度１～20）	①　４月下旬の果実発病は平年比やや多い。（＋） ②　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（－）
コナジラミ類	量：多い 程度：少発生（寄生株率１～25%）	①　４月下旬の発生量は平年比やや多い。（＋） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）
アザミウマ類	量：やや多い 程度：少発生（寄生花率１～10%）	①　４月下旬に寄生は認められなかったが、被害果（白ぶくれ症果）が確認された。（±～＋） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）

【冬春いちご（施設）】

うどんこ病	量：多い 程度：少発生（発病果率1～5%）	①　４月下旬の果実発病は平年比多い。（＋） ②　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（＋）
灰色かび病	量：やや少ない 程度：少発生（発病果率1～5%）	①　４月下旬の果実発病は平年比やや少ない。（－） ②　向こう１か月の気温は高く、降水量は平年並か少ないと予想されている。（－）
アブラムシ類	量：やや多い 程度：少発生（寄生株率１～25%）	①　４月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）
コナジラミ類	量：多い 程度：少発生（寄生葉率１～25%）	①　４月下旬の発生量は平年比やや多い。（＋） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）
アザミウマ類	量：多い 程度：少発生（寄生花率1～2%、被害果率1～5%）	①　４月下旬の花への寄生は平年比多い。（＋） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）
ハダニ類	量：やや多い 程度：少発生（１葉当たり寄生虫数 1～2、寄生株率1～40%）	①　４月下旬の発生量は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）

【アブラナ科野菜】

コナガ	量：やや多い	①　園芸研究センターの４月第５半旬までのフェロモントラップ誘殺数は平年並。（±） ②　向こう１か月の気温は高いと予想されている。（＋）

～　防除上の注意事項は、最新の「新潟県農作物病害虫雑草防除指針」を参照のこと　～

注１：「予報内容」の発生量は、平年対比の予想発生量（少ない、やや少ない、並、やや多い、多い、で表記)。また、「発生程度」は最も頻度が高いと予想される発生量の程度で、発生予察事業の調査実施基準等に基づく階級（無、少、中、多、甚、で表記）を示す。

注２：「予報の根拠」の（＋）は、発生量を増加させる要因、（－）は発生量を減少させる要因を示す。

～　農薬は適正に使用しましょう　～

○ 農薬の準備・使用にあたっては、必ず最新の農薬登録情報を確認しましょう。

○ 使用に際しては、ラベルに記載の使用基準や注意事項をよく読み、使用者が責任を持って使いましょう。

○ 農薬の飛散防止に努めましょう。周辺作物や住宅及びミツバチ等への危害防止のため、周辺の生産者や住民、養蜂業者に事前に防除計画を通知するなどの対策をとりましょう。

○ 農薬の使用後は防除日誌や作業日誌等の記帳に努めましょう。

○ 水田で湛水して農薬を散布する場合は、７日間の止水を厳守し、落水しないようにしましょう。

新潟県病害虫防除所業務課
電　話：0258-35-0867
ＦＡＸ：0258-35-7445
ＵＲＬ：www.pref.niigata.lg.jp/bojo

【参考】北陸地方　１か月予報（４月２９日から５月２８日までの天候見通しの天候見通し）
（新潟地方気象台：平成２９年４月２７日発表）

＜特に注意を要する事項＞
なし。

＜予想される向こう１か月の天候＞
向こう１か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
向こう１か月の平均気温は、高い確率５０％です。降水量は、平年並または少ない確率ともに４０％です。日照時間は、平年並または多い確率ともに４０％です。
週別の気温は、１週目は、高い確率６０％です。２週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。３～４週目は、平年並または高い確率ともに４０％です。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）＞

	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気　　温	２０	３０	５０
降 水 量	４０	４０	２０
日照時間	２０	４０	４０

＜気温経過の各階級の確率（%）＞

	低い	平年並	高い
１週目　（４月２９日～５月　５日）	１０	３０	６０
２週目　（５月　６日～５月１２日）	２０	４０	４０
３～４週目（５月１３日～５月２６日）	２０	４０	４０